

巻 頭 言

2020年4月に、災害科学・レジリエンス共創センターが和歌山大学紀伊半島価値共創基幹のもとに設置された。当センターは、2004年5月に和歌山大学内の教職員の有志によって活動を開始した防災研究教育プロジェクトに端を発している。その後、2010年4月に防災研究教育センターとして、正式な学内の組織の一部として活動を開始した。あれからちょうど10年という節目の年に、当センターが誕生したことになる。

この10年間には、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震により引き起こされた東日本大震災という未曾有の大災害もあった。和歌山大学も発災から一か月経過しない時期に被害状況調査のために現地に向かった。また、学生、教職員の有志も災害ボランティア活動のために、発災の年から数年間、毎年継続的にボランティアバスを運行して被災地との交流を深めてきた。

当センターも、この10年間に防災研究教育センター（2010年4月～2016年3月）、災害科学教育研究センター（2016年4月～2019年3月）と名称は変化してきたものの、防災・日本再生シンポジウムの開催（2012年～）、防災ジオツアーの催行（2015年～）、本学学生を対象とした防災士養成講座の開講（2017年～）など、防災・減災に関する情報提供を通じて、地域の防災力強化にむけ微力ながら貢献をしてきた。今後も継続して地元和歌山県ならびにその周辺地域と和歌山大学との共創という視点での活動を模索し、発展させていくことを目指している。

この2020年度の報告書を発行する2021年は、地元和歌山県においても紀伊半島豪雨災害からも10年の節目の年となる。また、2019年以降、世の中はCOVID-19により旧来の日常は崩れさり、防災・減災に関する活動においても感染症を意識せざるを得なくなった。本報告書では、新体制のもとで地域との共創について模索しつつ活動してきたプロジェクトが、これまでの活動の総括も含めて、この1年間の活動成果をまとめている。報告書を作成することで、過去の活動を振り返りながら総括しつつ、新しい日常の下での当センターの活動の具体化につなげていきたい。

災害科学・レジリエンス共創センター長
塚田 晃司